

主要施策報告① 本コース

2010 Report

世界最高水準の講師陣を迎え、現場での即戦力を育成

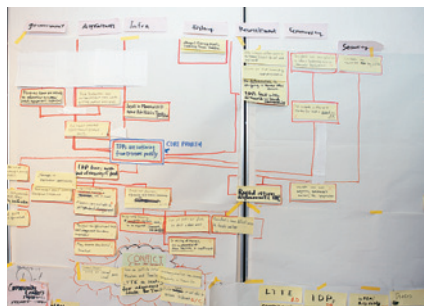
2011年1月31日から3月11日、本コース国内研修が東京及び広島で行われました。

本コースは、約6週間というまとまった期間での国内研修と、最大12ヶ月間のUNVとしての海外実務研修、さらに日本人研修員に向けてはキャリア構築支援を実施するなど、本事業の中でも中心的なコースです。

これまでの修了生からのフィードバックも反映して、今年度の国内研修ではワークショップでの演習を多用しており、カリキュラム構成も平和構築現場での実務により直接的に役立つよう工夫しました。具体的には、研修員が限られた時間の中でファシリテーターから与えられた枠組みに基づいて複雑な状況进行分析し、プロジェクトの立案をするという流れをつくり、より実際の現場を再現するようにしました。

また、日本人とは違った認識や前提をもつ海外からの研修員たちの間で、いかに自分の意見を伝え、合意形成を行うかというのは、国連などの組織でも必要とされる能力です。講義形式だけでなく、グループワークを数多く研修に取り入れることによって、研修員の国際コミュニケーション能力を伸ばすことができました。

研修員からは、「ワークショップによって、研修内容をよりしっかりと理解し、身につけることができた」など、本コースの研修内容に非常に満足したという感想が寄せられています。



コーディネーションの研修の模様。問題の原因を整理しながら解決策を導き出します。

DATA

今年度の日本人研修員は20代の方々が昨年の倍の8名となり、若い世代からの参加が目立ちました。海外からの研修員は、中央アジア、西アジアも含めて、広くアジア全体から参加しました。海外からの研修員の出身国には紛争後地域も含まれています。

日本人研修員

20代	8
30代	6
40代	1
合 計	15人

アジア人研修員

20代	4
30代	9
40代	1
50代	1
合 計	15人

アジア人研修員参加国(全15カ国)

アフガニスタン/カンボジア/中国/インド/インドネシア
イラク/キルギス/マレーシア/ネパール/パキスタン
フィリピン/韓国/タジキスタン/東ティモール/ベトナム



HPCスタッフメッセージ



今村 沙絵

HPC研修員支援担当

研修から行事まで
様々な形でサポートしました

広島での6週間もの滞在を快適にするために、様々なサポート業務を行いました。研修に関わる要望に応えたり、週末の行事企画等、その内容は多岐にわたります。研修員と直接話す機会が多く、スタッフながら多くのことを学ぶことができました。

Pick Up 講 師

紛争解決と平和構築について具体的に学び、グループワークやプレゼンで、学びをさらに深化させました

紛争分析は、平成22年度平和構築人材育成事業本コース研修の重要なテーマのひとつです。4日間のワークショップでは、紛争ダイナミクス、紛争分析手法、事例研究などのトピックを扱いました。研修員たちは、紛争段階、紛争マッピング、「紛争三角形モデル-紛争状況を把握したり、平和構築活動が可能な入口を考えたりする際に役立つモデル-」などの具体的なスキルを学び、実際に使用しました。研修員たちは、紛争解決に加え、プロジェクト・プランニング、プロジェクト・マネジメント、プロジェクト実施のスキルについて学びました。

研修員たちは研修内容に熱心な関心を示し、それぞれのセッションに積極的に参加していました。当初は、日本での研修後にUNVとしての平和構築現場での仕事を控える日本人研修員たちは研修に対して強い意欲を持っていると私は予想していました。一方で、アジア人研修員の

ほとんどが本事業のプログラムでは平和構築の現場に派遣されないため、研修の具体的なテーマに対する熱意は劣るのではないかと考えていました。

しかしながら、私の予想に反して、日本人研修員もアジア人研修員も皆、私の講義も含めた紛争分析のセッションに高い関心を示していました。小人数でのグループワークやプレゼンテーションでは活発な議論が行われていました。紛争状況の事例研究としては南スーダンを取り上げ、研修員たちに有益な情報や知識を提供しました。

この度の研修では、多様な国籍や文化を持つ研修員たちが一緒にになって講義を受け、グループワークに励んでいました。また、多くの研修員が、既に何らかの形で平和構築に関連する活動経験を有しており、それによって研修が一層充実したものとなったと同時に、彼らにとっても、今後平和構築分野でのキャリア構築

をするにあたってこの度の研修が大変充実したものとなったと私は確信しています。



日本人研修員とアジア人研修員が協力して課題に取り組む様子。

プロフィール



リザル・パンガビアン

ガジマダ大学平和と安全保障研究センター講師

From 研修員

各国の研修員たちと議論し、刺激し合った研修体系的かつ実践的な学びを、世界中のフィールドで活かしたい



迫田 恵子

外資系ビジネスコンサルティング会社勤務

私はビジネス業界から平和構築の分野へキャリアを転向するきっかけとして、本コースに参加しました。元々、紛争や災害、貧困を理由に、安全な住宅が不足している問題を解決したいと思い、大学・大学院で建築を学び、2年間途上国で活動しました。その後、異なるスキルを身に着けるべく就職した民間企業での数年を経て、目的だった基礎ビジネススキルや民間経営の感覚を取得できたと感じたため、今回、本コースに応募しました。

私は過去に平和構築について学んだことがなかったため、本コースは平和



グループワークでの議論の様子。実際の現場を想定し、皆真剣そのものです。

構築の基礎を短期間で体系的に学ぶことのできる貴重な機会となりました。また各国政府や国際機関での経験を有するアジア人研修員及び、様々な専門分野を基軸に各国で経験を積んだ日本人研修員と出会い、経験や知識を共有したり、議論したりする中で、互いに多くの学びや刺激を享受し合うことができたのはかけがえのない経験です。

研修を通して、大切な仲間との絆を築くことができました。

今後の目標

アカデミックな内容から実践的な事項、グローバル 이슈に取り組む姿勢等、HPCの講師陣や研修員から学んだ多岐に渡る内容を自分のものとして取り込み、世界中のフィールドで少しずつでも確実な変化を起こすことに役立てていきたいと思っています。

主要施策報告① 本コース 国内研修

国内研修のプログラム・講師紹介

現場を意識して より実践的な内容を展開

今年度の研修の特徴は、より実際の現場を意識した構成にしたところ。これまででは個別のテーマについて学んだ後、最後にワークショップを行って学んだことを総括する流れでしたが、今年はワークショップを中心とし、実践の中で様々な事例を考慮するスタイルをとりました。カリキュラムは、実際に研修員がフィールドに出てプロジェクトを行う時必要とされる手順に沿って作成しています。

例えば、研修第1週目では紛争分析を行います。我々ファシリテーターから枠組みを与え、研修員が情報収集し、状況を分析します。第2週目にはその分析を元にプロジェクトのプランニングを行います。さらに第3週では、国連やNGOなどの現場にいる様々なアクターを想定してのコーディネート、続く第4週と第5週には実際のプロジェクトのマネジメントや、スキルアップを中心に行います。

また、私が担当した紛争分析の研修では、現在分離独立の過程にあり、国連も関心を示しているスーダン为主要な事例として取り扱いました。アフリカは平和構築の現場として最も大きな位置を占めていますので、将来的に研修員が活動する可能性も考慮して事例の選択をしました。



紛争分析の研修の様。実際の紛争事例を元に、様々なアクターの存在を考慮しながら分析を進めます。

講師プロフィール



上杉 勇司

広島平和構築人材育成センター (HPC) プログラム・オフィサー
広島大学准教授

チームビルディング・エクササイズ

・上杉 勇司

HPCプログラム・オフィサー、広島大学准教授

・篠田 英朗

HPC事務局長、NPO法人ピースビルダーズ理事、広島大学准教授

国際機関による取り組み

・北島 千佳

国連ボランティア計画 (UNV) パートナースHIPとコミュニケーション課パートナーシップスペシャリスト

・ウィリアム・バリガ

国際移住機関 (IOM) 駐日代表

・久保 眞治

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 駐日事務所副代表 (渉外担当官)

・高須 直子

国連開発計画 (UNDP) 東京事務所プログラムマネージメントスペシャリスト

・草道 裕子

国連児童基金 (UNICEF) 東京事務所オペレーションズ・マネージャー

・本田 容子

世界食糧計画 (WFP) 駐日事務所支援調整官

自衛隊による国際平和協力活動

陸上自衛隊中央即応集団国際活動教育隊

・山田 憲和

国際活動教育隊研究科長

・その他6名の講師の方々

平和構築の概論

・篠田 英朗

HPC事務局長、NPO法人ピースビルダーズ理事、広島大学准教授

第3週：コーディネート

国連PKOと人道援助



・篠田 英朗

HPC事務局長、NPOピースビルダーズ理事、広島大学准教授

・井上 健

国連東ティモール統合ミッション (UNMIT) ガバナンス部長・首席ガバナンスアドバイザー

・関 薫子

国連事務局人道問題調整事務所 (OCHA) 政策担当官

・ジョセフ・レイッター

OCHAジュネーブ緊急サービス局増強人員部人材育成官、元DPKO文民派遣前統合訓練部長、OCHA国連軍連携コース、元コースダイレクター

・アマル・ジャワワルダナ

戦略研究地域センター事務局長、コロナバ大学国際関係学部教授

・大西 清人

NPO法人難民を助ける会理事・事務局次長

・イ・キョンシン

韓国海外協力NGO協議会 (KCOC) マネージャー

・キム・ソンテ

ワールド・ビジョン・コリア人道緊急援助局チームリーダー

・上杉 勇司

HPCプログラム・オフィサー、広島大学准教授

・小野 京子

国連平和維持活動局 (DPKO) 政策・評価・訓練部ベストプラクティスセクション政策担当官

・民間投資銀行勤務後、JPO試験に合格し

2003年より国連事務局勤務に勤務。2004年から国連事務局総長スーダン特別代表の特別補佐官としてスーダンと平和交渉に従事。その後国連プロジェクト・サービス機関 (UNOPS) 東京事務所代表を務め、2005年度国連競争試験 (人道) 合格後は、国連事務局国連平和維持活動局 (DPKO) に勤務し現在に至る。



第1週：紛争分析

紛争分析の手法 紛争事例の分析と対応方法の検討



・上杉 勇司

HPCプログラム・オフィサー、広島大学准教授

・リザル・パンガビアン

ガジャマダ大学平和と安全保障研究センター講師

・篠田 英朗

HPC事務局長、NPO法人ピースビルダーズ理事、広島大学准教授

・西田 竜也

広島市立大学准教授

・マーシャル・コンリー

コンリー・インターナショナル会長

教育改革・民主主義的市民権の教育やDDRプロセスの促進・実施に関する専門家。世界各地で、紛争後社会の復興、市民権向上や人権に関するレポートなど、数々のトレーニングに従事しており、カナダのピアソン平和維持センターでのトレーニング経験も有する。



第4週：プロジェクト・マネジメント

開発援助の動向



・篠田 英朗

HPC事務局長、NPOピースビルダーズ理事、広島大学准教授

・中村 俊裕

NPO法人コベルニク共同創設者、CEO

・エドワード・ジョンブラ

西アフリカ平和構築ネットワーク (WANEP) シエラレオネ支部代表

・ヴィクラム・パレック

国連平和構築支援事務所 (PBSO) 政策担当官・アセスメントオフィサー

・メムナツ・ブラット

シエラレオネ大学、元シエラレオネ特別法廷レガシオフィサー

シエラレオネ大学にておよそ20年教職をとっており、国内外における平和構築分野での貢献も数多い。近年では、国連との協力の下設立されたシエラレオネ特別法廷において、特別法廷のプログラムをシエラレオネの人々の永続的な遺産として活かすための活動を行う。また、特別法廷の人材育成プログラムのリード・トレーナーを務めた。



第2週：プランニング

プロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM) 人間の安全保障基金プランニング 統合ミッションプランニング



・篠田 英朗

HPC事務局長、NPOピースビルダーズ理事、広島大学准教授

・西田 竜也

広島市立大学准教授

・田瀬 和夫

国連広報センターイスラマバード事務所所長代行、元国連事務局人道問題調整事務所 (OCHA) 人間の安全保障ユニット課長

人間の安全保障の専門家。大学卒業後に外務省に入省し、国連に関わる部署を多く経験。2001年より2年間、緒方貞子氏の補佐官として「人間の安全保障委員会」事務局に勤務。2004年8月より国連事務局人道調整部人間の安全保障ユニットに出向し、2005年11月外務省を退職後、課長として同部署勤務。



・上杉 勇司

HPCプログラム・オフィサー、広島大学准教授

・長谷川 祐弘

法政大学教授、東ティモール大統領特別顧問、元国連事務総長特別代表 (東ティモール担当)

第5週：スキルアップ

UNHCR eセンター安全管理演習 キャリア構築ワークショップ (文書作成、面接スキルなど)



・ケビン・J・アレン

UNHCR駐日事務所 eセンター・コーディネーター

・ジョン・キャンベル

プライベートコンサルタント (人道支援スタッフのためのフィールドセキュリティ専門)

・佐藤 知央

オフィスクラッチ代表

・ルイズ・ロビンソン

InSiTu-Training代表

・宮澤 尚里

東京大学大学院新領域創成科学研究科研究員、元国連プロジェクト・サービス機関 (UNOPS) 東京事務所所長

・篠田 英朗

HPC事務局長、NPOピースビルダーズ理事、広島大学准教授

・玉内 みちる

UNICEF本部人事外部人材登用担当官

大学では異文化間コミュニケーションを専攻。卒業後は米の民間企業において人事・総務やコンサルティング業務に従事し、国際人材育成にも携わる。その後、フィリピンのWHO (世界保健機関) 地域事務局にて人材育成担当官、UNICEFインドネシアのカントリーオフィスにて人事担当官を歴任。ニューヨーク国連本部の人材開発担当官として勤務後、2007年より現職。



主要施策報告① 本コース 海外実務研修

海外実務研修

国連ボランティアとして積む、平和構築現場での実地経験

本コースの日本人研修員は、国内研修後、国連ボランティア(UNV)を通じて国連機関を中心とした世界各地の平和構築現場へと派遣され、最大12ヶ月間の海外実務研修に参加します。派遣先は、UNVにより、研修員の希望と適性、受け入れ機関のニーズを勘案して決定されます。

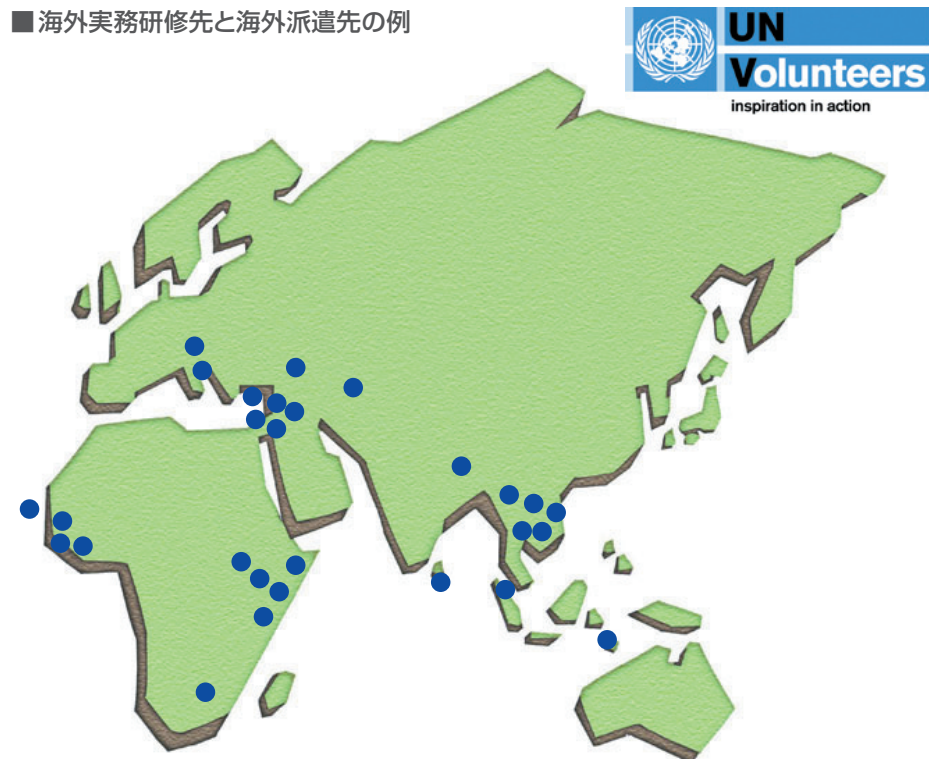
平和構築を担うプロとなるためには実務経験が欠かせません。海外実務研修では、単に研修を受けるのではなく、国連ボランティアとして国際機関での実務に携わることになります。これによって、国内研修で習得した理論やスキルを現場で実践すると同時に、実地経験を積みながら現場での活動のノウハウを習得します。

これまでの事業では、国連開発計画(UNDP)、国連児童基金(UNICEF)、国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)、国際移住機関(IOM)といった国連機関、国際機関などが受け入れ先となりました。派遣先の地域も、アフリカ、中央アジア、東南アジアなど非常に多様です。

こうした海外実務研修の実施を通して、即戦力となる人材を育て、世界で活躍できるプロを送りだすとともに、平和構築の分野における研修員のキャリア構築の第一歩とすることを目指しています。平成22(2010)年度の研修員は国内研修が修了する年度末から、順次海外実務研修へ出発する予定です。



■ 海外実務研修先と海外派遣先の例



■ 平成19(2007)年度～21(2009)年度海外実務研修・海外派遣先の例

派遣機関	派遣国
国連開発計画(UNDP)	キプロス、東エルサレム、コンボ、ラオス、レバノン、モンテネグロ、ネパール、シエラレオネ、スーダン、スリランカ、東ティモール
国連教育科学文化機関(UNESCO)	タイ
国連食糧農業機関(FAO)	タイ
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	エチオピア、ヨルダン、ケニア、コンボ、レバノン、ネパール、スーダン、タンザニア
国連児童基金(UNICEF)	アゼルバイジャン、カンボジア、ヨルダン、コンボ、ラオス、ネパール、東ティモール、ウガンダ、ベトナム
国連地雷対策支援信託基金(UNMAS)	レバノン
国連ミッション	ギニアビサウ、リベリア、スーダン、東ティモール
国連薬物犯罪事務所(UNODC)	ウズベキスタン
国連基金・計画事務所(OUNF&P)	カーボヴェルデ
国連世界食糧計画(WFP)	ケニア、ラオス、スリランカ
国際民主化選挙支援機構(International IDEA)	南アフリカ
国際移住機関(IOM)	インドネシア、ミャンマー、スリランカ
日本紛争予防センター	カンボジア
日本地雷処理を支援する会	カンボジア、ラオス

※NGOへの派遣は平成19年度、平成20年度のみ行われました。



UNDPキプロスでの14世紀に建てられたアルメニア教会及び修道院の修復プロジェクトのモニタリング。コミュニティの垣根を越えて、このような文化的建造物を協力して修復する機会を提供することで、コミュニティ間の理解・信頼関係を構築するのが目的。

本コース海外実務研修先の例 (平成21年度の派遣先の例です。)

受入先	派遣地	肩書	主な業務の例
国連開発計画(UNDP)	ニコシア・キプロス	ピースビルディング・オフィサー	• 和平プロセスと平和構築への取り組みを関連付けるための、平和構築プロジェクトの監視、評価や再設計
国連開発計画(UNDP)	ヤンビオ:スーダン	人道支援オフィサー	• 人道支援活動における、国連機関、政府、NGO、地元の有力者、ドナー間の調整 • 政府の安定や市民の保護などを含む緊急事態からの移行のための活動
国連児童基金(UNICEF)	ディリ:東ティモール	危機管理教育オフィサー	• 就学前教育に関するワーキンググループの指導を目的とした教育省の能力開発 • 災害リスク軽減のための関連教材の確認。さらにそれらの東ティモールへの適用や、必要に応じた開発のための調整業務
国連児童基金(UNICEF)	モロト:ウガンダ	教育オフィサー	• 地元機関間のコーディネーションミーティングへの参加 • 研修プログラムの策定・実施のための、地元政府有力者や、小学校教員、コーディネーションセンター指導員などへのサポート
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	ボル:スーダン	アソシエイト・プロテクション・オフィサー	• 帰還民や難民、国内避難民などの保護に関する報告書のモニター、分析、提供 • 能力開発や効果的な保護を目的としたネットワーク構築のため、UNHCRスタッフ、現地政府職員、地元コミュニティの指導者へトレーニングを提供
国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)	カクマ:ケニア	ピースビルディング・オフィサー	• 紛争状況や原因を究明するための、難民コミュニティと受け入れコミュニティの協議会の開催 • 平和構築や紛争解決への理解増進のため、コミュニティメンバーの能力開発
国連ギニアビサウ平和構築支援事務所(UNOGBIS)	ビサウ:ギニアビサウ	DSRSG/RC特別補佐	• 国連のギニアビサウへの支援提供の調整・管理のための、国連事務総長副特別代表・国連常駐調整官・常駐代表へのテクニカルサポート
国連基金・計画事務所(OUNF&P)	ブライア:カーボヴェルデ	コミュニケーション・オフィサー	• カーボヴェルデにおけるOne UNイニシアチブおよび改革のための内外とのコミュニケーションの促進・実行・管理
国際移住機関(IOM)	コロombo:スリランカ	DDR計画担当オフィサー	• DDRプログラムの策定および実施 • ローカルNGOやドナーなどの様々なカウンターパートとの会議実施 • 財政状況の確認や報告書の作成
国連薬物犯罪事務所(UNODC)	タシュケント:ウズベキスタン	法務担当オフィサー	• 国際的・地域的なプログラムの実施 • 国際犯罪や人身取引、汚職、マネーロンダリングに関する国連の条約や議定書の採択・履行・遵守のための国家への法的支援 • 民事・刑事手続の捜査、訴追、判決や実効的な法制化のための能力開発の際の、裁判官、検察官、法執行者、立法者などのトレーニング
国連食糧農業機関(FAO)	バンコク:タイ	栄養担当アソシエイト・オフィサー	• 国内および国際的な会議やシンポジウムの開催の支援 • 栄養分野に関する研修、ワークショップやセミナー実施を通じた能力開発支援

主要施策報告② 平和構築文民専門家訓練コース

2010 Report

専門家の実践的スキルの向上を目指すカリキュラム

2011年1月11日から1月21日まで開講された平和構築文民専門家訓練コースは、今年度新設されたコースです。このコースは、平和維持・平和構築の実務に従事する具体的可能性を持つ文民の方々を対象としています。日本およびアジア諸国から、国連機関職員・公務員・NGO職員など、世界各国で既に様々な分野で平和構築関連業務に従事している20名の方々が研修員として参加しました。約2週間の研修中には、第一線の研究者や実務家など、世界最高水準の講師陣による講義やワークショップを行いました。既に何らかの専門性を持っている方々に対しての研修ですので、平和構築の観点から総合的なスキルを向上させるための内容を設定しました。

研修員の希望者のうち、適性が認められる若干名に関しては、国連PKOミッションへの派遣の機会が提供されることから、研修では特に平和維持活動に焦点をあてました。そして、政府・国際機関・地域機構・援助機関などでの平和維持・平和構築活動において必要とされる実践的なスキルの習得や、指導者としてキャリアを発展させていくための姿勢などについて学びました。研修員からは「研修を通して得たことを今後の実務に活かしたい」などの声が聞かれました。



与えられた課題に対し、研修員でグループを作ってロールプレイを実施。

DATA

平和構築文民専門家訓練コースには、20代から50代まで幅広い年齢層の研修員が参加しました。また、このコースには、ブルネイ・モンゴル・スリランカ・タイ・ウズベキスタンなどからも研修員を迎えました。

日本人研修員年齢分布

20代	1
30代	6
40代	3
合 計	10 人

アジア人研修員年齢分布

20代	3
30代	5
40代	1
50代	1
合 計	10 人

アジア人研修員参加国(全10カ国)

アフガニスタン／ブルネイ／イラク／キルギス／モンゴル
パキスタン／スリランカ／タイ／東ティモール／ウズベキスタン

講師紹介

内 容	講 師
平和構築の総論	篠田 英朗 (HPC事務局長、NPO法人ピースビルダーズ理事、広島大学准教授) 上杉 勇司 (HPCプログラム・オフィサー、広島大学准教授)
国連平和維持活動(PKO)と治安部門改革(SSR)	マーク・ダウンス(軍隊の民主的統制のためのジュネーブセンター[DCAF]国際治安セクター顧問チーム[ISSAT]部長) マリカ・ジョセフ(平和と紛争研究所所長)
人道支援とPKO PKOとリーダーシップ	フランシス・アマル(フォーカス・エボリューション代表、元赤十字国際委員会[ICRC]職員) ヴィオレーン・デ・ロジエール(人道平和維持のための組織・能力開発国際コンサルタント) 林 秀樹(防衛省統合幕僚学校国際平和協力センター教育・研究室長) 長谷川 祐弘(法政大学教授、東ティモール大統領特別顧問、元国連事務総長特別代表[東ティモール担当])

HPCスタッフメッセージ



ジョン・ヒョンジョン

HPC研修員支援担当

**初開催となったコース
海外研修員の環境変化への
ケアを大切にしました**

平和構築文民専門家訓練コースは今年初めて実施されるコースですので、どのような研修員が集まるのか楽しみにしていました。研修が始まると、きさくで熱心な研修員の皆さんとすぐに親しくなることができました。半数は海外からの研修員なので、彼らが環境の変化の中でも研修に集中できるよう、特に配慮しました。

Pick Up 講 師

**多様なバックグラウンドを持つ研修員だからこそ活発な議論
それが、より深い理解と共感を生み出しました**

平和構築文民専門家訓練コースにおいて、私たちは「治安部門改革(SSR)入門」の研修を担当しました。まず、平和維持ミッションにおける文民専門家の重要性の高まりや当分野へのアイルランド政府の関与について、在日アイルランド大使館のドナル・ケンナリー氏にお話をいただきました。

私たちは、3日半の研修の中で、SSRの概念や実務の簡単な導入からSSRプログラムの計画・実施に至るまでの12のモジュールを紹介しました。講義やディスカッション、グループワークを織り交ぜながら、研修員が治安・司法部門の全体像を描いたり、制度やサービスを評価したり、国際的な支援プログラムを策定したりするのに役立つツールや概念を提供しました。研修は、既存のISSAT研修コースをこの平和構築文民専門家訓練コースのニーズに合わせてアレンジしており、さらにはHPCと

の事前打ち合わせをもとに、警察改革に関する3つのモジュールを作成し、紛争後における警察改革の原則を研修員に学んでもらいました。また、警察改革の評価や警察改革プロセスを支援するプログラムの計画を目的としたグループエクササイズも行いました。

研修員のほとんどはこれまで直接的に治安・司法改革の分野で活動していたわけではありませんでしたが、研修を通してSSRと他の平和構築活動の繋がりを理解することができたようです。研修員は新しい概念を即座に理解し、それらを使って実践的なエクササイズを行っていました。研修終了後、研修員は研修内容に大変満足しており、自身の現在の仕事に活かすことができると語っていました。多様なバックグラウンドを持つ研修員が、彼ら自身の現場での経験をもとに活発に議論していたのも印象的でした。



研修員の間を回り、個々に質問に答えるダウンス氏。

プロフィール



マーク・ダウンス

軍隊の民主的統制のための
ジュネーブセンター[DCAF]
国際治安セクター顧問チーム
[ISSAT]部長

From 研修員

**経験豊富な研修員との出会いが、
平和構築への多角的視野を与えてくれました**



清水 麻衣子

国連開発計画(UNDP)
ザンビア事務所
ガバナンス&ジェンダーユニット
プログラム・アナリスト

数年前に、大学院の修士課程で平和と紛争解決を専攻しましたが、同分野の最近の傾向も含め、知識をアップデートしたかったため平和構築文民専門家訓練コースに参加しました。また、今後も平和構築・ガバナンスの分野でキャリアを積んでいきたいと考えており、当コースの受講がその良い準備になるとも考えました。

HPCのコースは、大学院で勉強した内容よりもずっと実践的であり、フィールドの現実に即した内容を扱えたと感じました。平和構築は幅広い分野です



グループワークの様々。アジア人研修員は紛争後地域からの参加も多く、その意見は大いに参考になります。

が、最近の傾向を学ぶことができたのは、大変有益でした。何より、平和構築の最前線にいるアジア各国からの研修員と、平和構築のそれぞれの分野で経験豊富な日本人研修員からのインプットが、講義内容を更に肉付けし、平和構築の課題を多次元に捉えることを可能にしてくれました。

今後の目標

UNDPザンビア事務所のガバナンス・ユニットで、JPOとして勤務を開始する予定です。JPO後も、国づくりのニーズがあるようなフィールドで、平和構築とガバナンスの仕事をしていきたいと考えています。仕事をやる上で、人的ネットワークは糧になると感じますが、今回の研修では、いつかまた仕事の現場で再会しそうな仲間達に出会えました。彼らと知り合う場を与えて下さったことに感謝しています。

主要施策報告③ 平和構築基礎セミナー

2010 Report

多彩な学びのスタイルを加え
平和構築への基礎的理解を増進

2010年12月13日から12月17日、東京の国連大学ビルにおいて平和構築基礎セミナーを開催しました。このセミナーは昨年度から開設され、今回が2度目となりました。応募条件に実務経験や年齢に関する制限がなく短期間で行われることから、本事業の中で最も間口の広いセミナーと言えます。今回のセミナーには30名の受講者が参加し、大学生・省庁関係者・NGO職員・開発コンサルタント・一般企業など幅広い分野からの人材が集まりました。

参加の動機も、「平和構築の概論など基礎知識を得たい」というものから、「現在仕事で関わっている(平和構築関連の)プロジェクトに活かしたい」という具体的なものまで様々でした。

セミナーでは、「平和構築とは何か」や「紛争はなぜ起こるのか」など5つのテーマについて各分野の専門家、実務家の方々による講義が行われました。今年度は講義だけでなく、昨年度の受講者の要望を踏まえてワークショップも数多く取り入れ、平和構築の基礎について体系的に学べるカリキュラムが提供されました。

本事業を通じて蓄積された経験やノウハウ、専門家とのネットワークを、将来的に当分野での活躍が期待される幅広い層に向けて提供する素晴らしい機会となり、受講者の反応を見ても、このようなセミナーに大きなニーズがあることを実感しました。

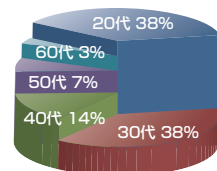


グループワークでまとめた将来のキャリアプラン発表の様子。それぞれの立場から、どのように平和構築へ貢献していくかを考えました。

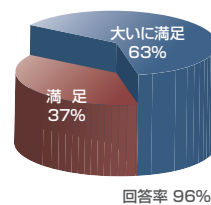
DATA

今年度の平和構築基礎セミナーは、20代から50代までの幅広い年齢層の方々が受講しました。また、セミナー終了後に実施したアンケートによると、本セミナーの満足度は非常に高く、「講師の方々の質が非常に高く、受講者のバックグラウンドも多彩で大きな刺激になった」「生涯忘れられない1週間になった」などの意見や感想が多数寄せられました。

受講者年齢分布



受講者満足度



講師紹介

内 容	講 師
「平和構築とは何か」	篠田 英朗 (HPC事務局長、NPO法人ピースビルダーズ理事、広島大学准教授) 上杉 勇司 (HPCプログラム・オフィサー、広島大学准教授) 二村 まどか (国際連合大学サステナビリティと平和研究所学術研究官、人権と倫理研究部長)
「紛争はなぜ起こるのか」	武内 進一 (JICA研究所上席研究員)
「国際社会の紛争への対応」	稲田 十一 (専修大学教授) 米川 正子 (宇都宮大学特任准教授)
「紛争地域の活動とは何か」	長 有紀枝 (立教大学大学院教授、難民を助ける会理事長、ジャパン・プラットフォーム共同代表理事、東京大学大学院非常勤講師) 伊勢崎 賢治 (特定非営利活動法人ピースビルダーズ代表理事、東京外国語大学大学院教授)
「日本は平和構築に何ができるか」	山崎 文夫 (外務省総合外交政策局国際平和協力室首席事務官) 相原 泰章 (内閣府国際平和協力本部事務局専門官) 小向 絵理 (JICA 国際協力専門員<平和構築>、公共政策部・経済基盤開発部課題アドバイザー)

HPCスタッフメッセージ



長尾 寛子

HPCプログラム・コーディネーター

基礎的講座でありながら、経験豊富で意識の高い受講者を迎え充実した研修に

一流の講師陣をお迎えし、私自身にとっても非常に刺激の多いセミナーだったと感じています。今回は模型を使った難民キャンプの再現など、新しい手法の問題解決型ワークショップも取り入れられました。それらの準備に関わられたことも、大変良い経験になりました。

Pick Up

講 師

「平和構築とは何か」という根本的な問いを投げかけたセミナー
多角的かつ長期的な視野を持つことが、平和構築には重要です

昨年に引き続き平和構築基礎セミナーをHPCと共催し、講師ならびにモデレーターとして1週間のセミナーに参加させていただきました。昨年のセミナーでは平和構築の具体的な活動に焦点をあてた講義を多く取り入れたのですが、今年は全体を通して「平和構築とは何か」という根本的な問いを皆さんに考えてもらうセミナーになったように思います。

その中で、初日に「平和構築におけるローカル・オーナーシップと国際社会」の講義を担当しました。私たちが行う平和構築をめぐる議論の多くは、「私たち(国際社会・日本)」には何ができ、何をすべきかということに焦点が当てられています。しかし、紛争を経験した社会が真に永続的な平和を取り戻すためには、現地の人々自身が社会の建て直しに積極的に関与することが不可欠で

す。現地の意志、能力そしてニーズを把握した上で、国際社会は現地社会とどのような協力体制を作って平和構築に臨むのか。現在平和構築活動が直面する大きな課題の一つであり、これから「外部の」アクターとして平和構築に関われる受講者の皆さんに考えていただきたい問題です。

平和構築は永続的な平和を築くための「プロセス」です。そのプロセスに従事する中で、自分の行う活動をどのように位置づけるのか、位置づけるべきなのか。数ある他の活動との関係性をどう見るのか。そして、その活動はどこに向かって行われているのか。受講者の皆さんには、広く長期的な視野を持って、それぞれの専門分野から平和構築に携わっていただきたいと思います。



二村氏担当の講義の様様。質疑応答の時間には熱心な質問が相次ぎました。

プロフィール



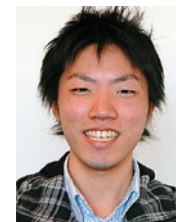
二村 まどか

国連大学サステナビリティと平和研究所学術研究官、人権と倫理研究部長

From

受 講 者

「紛争」や「平和」の概念から具体的な活動まで
体系的に学んだ5日間でした



関 友哉

青山学院大学
総合文化政策学部3年生

今年の夏にゼミの研修旅行で東ティモールとインドネシアを訪れた際、この2国の内的な和解が本当に達成されているのか疑問に思ったことが、平和構築基礎セミナーに参加しようと思ったそもそものきっかけです。このセミナーで「平和構築」という分野について知ることによってその問題の答えや自分の今後の人生を考える助けにしようと思って応募しました。

セミナー受講中は、非常に楽しく5日間を過ごしました。大学生の大半は入学した時点では具体的な夢や目標をイメージしていないと思いますし、大学での勉強も、表面的なところで終わってしまいがちです。それを考えると、このセミ



最年少ながら、経験豊富な受講者や講師にも積極的に質問し、議論に貢献しました。

ナーでは「紛争」や「平和」の概念といった根本的なところから、「紛争をどのように解決できるか」などの具体的な方法まで、平和構築について体系的にしっかり学ぶことができました。また、概論を学んだ後に受講者間でそれを深め合えたのが良かったです。

僕も、この分野に関心はありましたが、受講前から具体的な目標を見つけていたわけではありません。このセミナーを受けて省庁の方や海外で活動してい

しゃる方など、色々なバックグラウンドを持った受講者の方々と出会え、今現場で必要とされていることや学ぶべき語学など、たくさんのアドバイスをいただきました。就職で迷っている方も含めて、是非参加されるといいと思います。

今後の目標

継続して勉強を続け、この5日間の経験を今後活かしていく方法を探していきたいです。

主要施策報告④ スケジュール 平成22(2010)年度

●10月2日、3日

東京、日比谷公園で開催された「グローバルフェスタJAPAN2010」に本事業説明ブースを出展



●10月5日

大阪大学中之島センターにて、本事業説明会およびOSIPP国連政策セミナー「平和構築分野におけるUNVの活動とキャリア形成～現状と展望～」(HPC、大阪大学OSIPP国連政策センター共催)開催



HPCの篠田英朗事務局長の他、大阪大学の星野俊也教授、香川大学の山本慎一准教授、国連ボランティア計画(UNV)から東京事務所長の長瀬慎治氏とボン本部から来日したヴェロニク・ジディ・アボレイガー氏が講演。

●11月4日

東京、有楽町朝日スクエアにて公開シンポジウム「アジアからの平和構築～日韓対話2010～」(HPC主催 Korea NGO Council for Overseas Cooperation [KCOC]、ジャパン・プラットフォーム [JPF]後援)開催



●1月31日

国連大学本部ビルにて本コース開講式



●2月21日～25日

第3週「コーディネーション」



8

August

●17日 平成22年度外務省委託「平和構築人材育成事業」立ち上げ

9

September

●2日 平和構築基礎セミナー受講者募集開始

●10日 本コース、平和構築文民専門家訓練コース日本人研修員募集開始

●15日～16日 ジンバブエで開催された「International Recruitment & Deployment Workshop」にスタッフ派遣

●27日 マレーシアで開催された平和構築活動に関するアジア人平和構築専門家ワークショップ(Asian Experts Workshop Preliminary Programme)にスタッフ派遣

●30日 アジア人研修員募集開始

10

October

●7日 東京、国連大学本部ビルにおいて本事業説明会「平和構築人材育成事業と国連との協働」(HPC、国連ボランティア計画共催、国連大学後援)開催

●19日 東京、泉ガーデンコンファレンスセンターにて平和・安全保障研究所、HPC共催セミナー「Peacekeepers and their Early Peacebuilding Task」開催

●20日 東京、JICA地球ひろばにて本事業説明会及びキャリア構築セミナー「平和構築に求められる人材像」(平和構築フォーラム、HPC共催、JICA協力、国際開発ジャーナル社後援)開催

11

November

●6日 京都、立命館大学にて「平和構築人材育成事業」説明会(立命館大学大学院GP、HPC共催)開催

●13日 東京、新宿サンスカイルームにて開催された「国際協力キャリアフェア2010」に本事業説明ブースを出展

●27日～12月1日 バングラデシュのダッカで開催されたIAPTC(International Association of Peace Keeping Training Centers)年次会合に、篠田英朗HPC事務局長と上杉勇司同プログラム・オフィサーが参加

12

December

●13日～17日 国連大学本部ビルにて平和構築基礎セミナー(HPC、国連大学共催)実施



1

January

●11日～21日 東京、都市センターホテルにて平和構築文民専門家訓練コース実施



2

February

●1日 本コース国内研修開始

●2日 陸上自衛隊駒門駐屯地訪問

●4日 広島での研修開始

●7日～10日 第1週「紛争分析」

●11日 広島アステールプラザにて、公開セミナー・文化交流会「今改めてヒロシマで考える平和構築」(HPC主催、国連訓練調査研究所[UNITAR]広島事務所、財団法人広島市文化財団アステールプラザ共催)開催

●14日～18日 第2週「プランニング」

●15日～17日 ニューヨークで開催されたセミナー「Challenges Forum Seminar in New York」にスタッフ派遣

●28日～3月4日 第4週「プロジェクト・マネジメント」

3

March

●7日～11日 第5週「スキルアップ」

●11日 本コース国内研修終了(順次、海外実務研修開始)

主要施策報告⑤ 知的貢献・シンポジウム・専門家会合等の報告

2010 Report シンポジウム等の報告

公開シンポジウムの開催

「アジアからの平和構築～日韓対話 2010～」

この公開シンポジウムは、2010年11月4日、東京、有楽町朝日スクエアにて、日本を含めたアジアからの平和構築への貢献をテーマに開催されました。

今回は特に、日本と韓国の専門家の方々が一堂に会し、政府開発援助(ODA)における多角的協力、国連平和維持活動(PKO)における日本と韓国の活動、人道支援におけるNGO活動の課題というテーマの下、3つのセッションを設け、それぞれのテーマについて、報告及びディスカッションを行いました。それぞれのテーマについて日韓両国の専門家及び実務者から報告が行われ、相互の理解を深めると同時に、それをシンポジウムの参加者の皆様とも共有する機会となりました。

このシンポジウムで実現した意見交換、ならびに専門家間のネットワークを通じて、今後日韓両国のさらなる連携と、アジア諸国全体の平和構築の能力向上が期待されます。



セッション1「政府開発援助における多角的協力」

日本国際協力機構(JICA)と韓国国際協力機構(KOICA)のそれぞれからODA担当者による報告があり、両機関の援助実施方針についての比較を通して理解を深める機会となりました。また、日本がODAを通じて培ってきた方針が国際的に受け入れられ、経済協力開発機構(OECD)における国家建設についての原則として認められた事例に

についても紹介されました。



セッション2「平和維持活動における日本と韓国」

セッション2の冒頭では民主党参議院議員、大野元裕氏より問題提起が行われました。その後、日韓の国防関連の実務家や研究者によって、PKOへの参加がそれぞれの国においてどのような役割を担うかについて報告がされました。

PKOの実情についてリベリアの事例の紹介や、実際にハイチにおけるPKOの中で日韓協力が可能となった事例、将来的な協力関係のための枠組み形成についての討議等も行われました。

セッション3「人道支援におけるNGO活動の課題」

NGOによる人道支援活動に焦点を当てた、現場の臨場感溢れる報告が行われました。各団体の、特にハイチとパキスタンにおける活動が紹介されました。それら具体的な事例を通して、日韓

それぞれのNGO活動の特長と課題が報告され、特に政府との関わりや、広く国民に支持を受けて資金調達につなげることについてなどが話されました。



イ・キョンシン

韓国海外協力NGO協議会(KCOC)マネージャー

アジアの平和構築貢献のパートナーとして
今後の日韓協力の礎石を築けたと実感しています

シンポジウム「アジアからの平和構築～日韓対話2010」は、平和構築関連分野における、「政府開発援助(ODA)」、「国連平和維持活動(PKO)」、「NGO」の各々の経験や挑戦から学ぶ場として大変意義深い機会となりました。日韓の協力関係は、アフガニスタンでの韓国国際協力機構(KOICA)と日本国際協力機構(JICA)による協力プログラムや、最近のハイチにおける韓国平和維持活動と日本の自衛隊による再建プログラムのように、既にいくつかの実例において見ることができます。

私自身は人道支援分野で働くNGOの実務家として、日本が平和構築におけるNGOの役割の重要性を深く認識し、ジャパン・プラットフォーム(JPF)という調整のための枠組みを設立することで、人道支援に際しNGOが直面する困難を乗り越えるための実質的なサポートをしていることに感銘を受けました。韓国の人道NGOは、災害後の差し迫ったニーズに迅速に対応するための初期資金や優れた専門家の不足など、過去に日本のNGOが直面したのと同じ問題を抱えています。そのため韓国のNGO実務家たちは、JPFは新たな課題に直面してはいるものの、韓国の人道支援システムを向上させる良きベンチマークだと捉えています。

今回、アジアからより効果的に平和構築に貢献するためのパートナーシップづくりというニーズと認識を共有することができました。このシンポジウムが平和構築分野における今後の日韓協力への重要な礎石となったと私は考えています。

海外のワークショップ、会議への参加

今年度、HPC 職員は各国の平和構築関連のワークショップや会議へ招聘されました。

ジンバブエでのワークショップに参加

2010年9月、ジンバブエのブラワヨで開催された"International Recruitment & Deployment Workshop"にHPCスタッフのジョン・ヒョンジョンが出席しました。このワークショップは、平和活動分野のロスター運営を中心とした文民派遣体制で先進的な活動を行っているZIF (Germany Centre for International Peace Operations)と、アフリカ地域で文民派遣のロスターを運営しているNGO、AFDEM (African Civilian Standby Roster for Humanitarian and Peacebuilding Missions)が共催し、国連機関を含む、アフリカと欧州の関連機関、政府機関、NGOおよび研修・訓練機関からの出席者約40名が文民専門家の役割や適切な派遣時期について意見交換しました。これは、本事業に直接関わるテーマであり、引き続き情報収集を行っていく予定です。

クアラルンプールでのワークショップに参加

2010年9月、マレーシアのクアラルンプールで開催された平和構築活動に関するアジア人専門家ワークショップに、HPCスタッフの出水幸司が参加しました。

これは、スウェーデン、マレーシア、オーストラリアの研究機関が共催したもので、東南アジア諸国やオーストラリア政府、国際機関、NGOからの専門家総勢25名ほどが出席し、"The Civilian Contribution to Peace Operation: Assessing Progress and Identifying Gaps"と題して議論しました。HPCは事業報告並びに専門家との意見交換を行い、事業の実績は高く評価されました。

ダッカでの会議に参加

2010年12月、バングラデシュのダッカで開催されたIAPTC(International Association of Peacekeeping

Webの活用

インターネットの積極的活用により、世界中の「ピースビルダー」にアプローチ

今年度HPCでは、広報にインターネットを積極的に活用しました。募集期間中に国内各地で行った説明会の模様や、知的貢献活動の一環で行った公開シンポジウムの模様のインターネット配信もその一例です。インターネット上の動画配信サイト「Ustream」を通して映像と音声配信、さらに、誰もが気軽にインターネット上に短文を投稿できるコミュニティ・サービス「Twitter」を通じた質問の受け付けも行いました。このグローバルなインターネットサービスを使用した最新の試みによって、海外を含めた広い地域で、会場とリアルタイムで情報を得ることが可能となりました。

また、研修員の募集期間中にはインターネット広告や、「平和構築」「国際協力」など、関連する用語が検索された際、検索画面にHPCのホームページを表示させるリスティング広告なども新しく取り入れました。研修員に行ったアンケート結果を見ても、多くの研修員がインターネットを通じて本事業を知ったことがうかがえ、HPCのメール配信サービスへの登録者も増加し

Training Centers) 年次会合に、HPCの篠田英朗事務局長と同プログラム・オフィサーの上杉勇司が参加しました。国連平和維持活動の訓練に関する現状や課題について話し合うこの会議には、関係者99名が出席しました。例年IAPTCは各国の平和活動研修機関や国際組織関係者が集う場であり、HPCは会議内で積極的に議論に貢献すると共に、事業広報に努めました。多くの参加者と人脈を作り、本事業の拠点であるアジアで開催されたこのような重要な会議において事業のプレゼンスを高める意義を再確認しました。

ニューヨークでのセミナーに参加

2011年2月、ニューヨークで開催された"Challenges Forum Seminar in New York"に、HPCスタッフの出水幸司が出席しました。

今回のセミナーは、カナダやスウェーデン、南アフリカなど17カ国の関係機関がメンバーであるInternational Forum for the Challenges of Peace Operations Partner Organizationsの一環として開催されました。セミナーでは今年、同フォーラムが発行した"Consideration for Mission Leadership in UN Peacekeeping Operations"のまとめを中心に、専門家、実務家の発表が行われました。HPCが今回得た情報や人脈は、今後様々な形で、事業の修了生をはじめ、アジアからの平和構築分野の人材輩出に役立つことが期待されます。

HPCスタッフ



出水 幸司

HPCプログラム・コーディネーター

世界各国の専門家が集まり本分野での文民専門家の活動強化について議論している会議やワークショップに参加し、改めて本事業の役割の大きさを痛感しました。海外の機関や専門家は、HPCに大きな関心を寄せており、国際社会からも、日本や他のアジア諸国からの本分野への人材輩出が強く望まれていると感じました。



シンポジウムの模様のUstream配信画面
※イメージ画像

HPCスタッフ



渡邊 素子
HPC広報担当